

謹賀新年

新たな時代へ一丸! 岸和田 JAYCEE!

～思いやりで育てよう 我がまち岸和田～



岸和田JC理事長 **長岡 伸幸**

新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のごあいさつを申し上げます。一昨年から創立五十周年関連事業、中央公園における防災関連施設寄贈事業が昨年11月に竣工を迎えることができました。またOTONANOSENAKA運動、岸和田市長選挙公開討論会などの2009年度の様々な事業も無事終えることができましたことをご報告申し上げます。これも市行政並びに教育委員会をはじめとする関係諸団体の皆さま、ご参加いただきました市民の皆様、岸和田青年会議所シニアクラブの諸先輩方のご協力の賜物であります。社団法人岸和田青年会議所を代表し心より御礼申し上げます。

経済活動においてはそろそろリーマンショックでの底打ちかと思えば、中東ドバイでの金融不安とまだまだ経済復活の兆しが見えない状況ではありますが、新政権での様々な新しい政策による政治改革、岸和田においても野口市長が再選され岸和田もさらなる改革が期待される環境の中、新春を迎え厳しい中にも一筋の光が見いだせるものと期待に胸をふくらませていく次第であります。

2010年度社団法人岸和田青年会議所は33名でのスタートになりますが、若い力をもって「奉仕」「修練」「友情」の三信条を合言葉に、よりよいまちづくりに邁進してまいり所存であります。

本年度は「新たな時代へ一丸!岸和田JAYCEE!」～思いやりで育てよう 我がまち岸和田～と致しました。まだまだ厳しい社会環境の中で、人間関係も難しく感じるようになってきました。思いやりあふれる岸和田の実現のためにも、まず我々が思いやりあふれる仲間同士を実現し、このまちに何か必要かを考え行動してまいります。昨年より引き続き岸和田版OTONANOSENAKA運動も引き続き実行してまいります、子どものしつけは、まず親が実践する。そのSENAKAは必ず子どもは見ています。これを感じ、まず我々からいいOTONAになれるよう行動します。まだまだ厳しい経済環境の中で少人数の団体になってまいりましたが、我々40歳までの団体でしかできない青年らしい英知と勇気と情熱を存分に発揮したいと考えます。

最後に、本年度も皆様のご協力を賜りながら全力で取り組んでまいりたいと考えております。昨年同様ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。本年度が皆様にとりまして輝かしく幸多き一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



岸和田市市長
野口 聖

新年明けましておめでとうございます。青年会議所の皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より市政全般にわたり温かいご支援、ご協力を賜り心から厚くお礼申し上げます。

さて、昨年末の市長選挙におきましては、市民の皆さまの力強いご支援と温かいご厚情を賜り、引き続き市政を担当させていただくこととなりました。

昨今、急激な少子高齢化の進展や景気低迷による市税収入の減少、また一方で地方分権の一層の進展など、自治体を取り巻く行政環境は激変し、その舵取りが非常に難しい時期であります。その責任の重大さを痛感し、さらに身を引き締めて市政運営にあたってまいり所存であります。

まちづくりの基盤は確固とした財政基盤の確立が必要であります。現在、進めております都市基盤整備や産業・観光振興、また行財政改革などを進めつつ、今後さらに市民の目線に立った質の高い行政サービスの提供や、快適で安全な生活基盤を築く生活環境づくり、人やモノが行き交い地域資源を活用した賑わいと活力あるまちづくり、地球と人に優しい緑豊かな美しいまちづくりなど、創造のまちづくりプランの実現を図ってまいります。

また、一層簡素で効率的な行政運営を行いながら、市民の皆さまが「安全で安心して暮らせるまち岸和田」、「全ての市民が生きがいを持って暮らせるまち岸和田」、そして「子や孫の世代も住み続けたいと思えるまち岸和田」を築いてまいりたいと考えております。

どうか今後とも、皆様の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。本年も皆様方にとりまして、幸多き年となりますよう心からお祈り申し上げます。私の新年のご挨拶といたします。



岸和田商工会議所会頭
柳曾 健二

新年明けましておめでとうございます。青年会議所の皆様には、ご家族お揃いで、幸多き初春をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年は貴青年会議所の50周年記念事業を締めくくべく、中央公園内に「災害避難J.C広場」の設置や未来を担う小学6年生のこども達の「タイムカプセル埋設」事業など、無事終えられたことを心からお祝い申し上げます。

また、昨年11月には、私ども岸和田商工会議所青年部と一緒に「岸和田市長選挙公開討論会」を催され、両者の連携が一段と深まったことは大変喜ばしいことであります。

本年度は次の50年に向けての第一歩であり、「新たな時代へ一丸!岸和田JAYCEE!」～思いやりで育てよう 我がまち岸和田～をスローガンに掲げられていますが、私なりに解釈しますと、岸和田の持つ歴史、伝統、文化、人情を礎として、量よりも質の豊かさ、いわば、クオリティ・オブ・ライフを求めて、様々な事業を展開していくということではないかと思っております。どうか、メンバー一人一人が高い志をもって、力を合わせ目標に向かって邁進されますことを期待しています。

さて、我が国経済は、最悪期を脱したとは言え、相変わらず雇用をはじめとして、厳しい状況が続いている上に、ここへ来て、デフレと円高に直面しており、中小企業や地域にとっては再度、体力の限界に晒される局面を迎えています。

これに対応して、商工会議所は相談業務の充実など、産業振興と中小企業の経営支援に今まで以上に取り組むとともに、観光振興など、活力と賑わいのあるまちづくり事業を積極的に進めています。

皆様におかれましては、地域のリーダーとしての力を存分に発揮されるようお願い申し上げます。また、本年が皆様方にとりまして、輝かしい1年でありまして、ご新念申し上げます。新年のご挨拶と致します。



JCシニアクラブ会長
三森 勇作

新年明けましておめでとうございます。岸和田市民及び岸和田青年会議所会員の皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私たち岸和田JCシニアクラブは、社団法人岸和田青年会議所(Kishiwada Junior Chamber略して岸和田JC)のOB組織として長年に亘り活動して参りました。その間、岸和田JCのサポートを通して地域社会のために僅かでも貢献できたことを大いに誇りに思います。

岸和田JCでは昨年、創立半世紀を超えた記念として市内中央公園に防災のための諸施設を寄贈したことは出色の出来事でした。いつ何時起こるかもしれない天変地異に備えて準備することは、理解していても日々の生活に追われなかなかできる事ではありません。阪神大震災の時にボランティアとして芦屋市にある津知公園で見た惨状の思い出します。所狭しとブルーシートでテントが並び、空には黄砂と見まがうような光景です。必ず起こると言われている東南海地震、大阪市内から岸和田付近まで延びているという上町断層が動いたならば…。私たちは、想像をたくましくして備えに邁進しなければなりません。JCの皆様には、ぜひこれからも岸和田のまちづくりのために市民、行政、関係諸団体の方々と力を合わせて時宜を得た事業を企画、立案、遂行して頂きたいと思っております。

さて、本年度岸和田青年会議所は「新たな時代へ一丸!岸和田JAYCEE!」～思いやりで育てよう 我がまち岸和田～をスローガンに掲げ、多方面の事業を展開しようとして計画されているとのこと。長引く経済不況の中、先行きの不透明感不安感など様々な原因で国内での一年間の自殺者が3万人を超える時代です。また、一億総中流社会といわれた時代から都市間、企業間の格差拡大や個人においても所得格差の拡大が起っています。そんな状況下で思いやりあふれる岸和田を創造しようとすることは素晴らしい試みであると思っております。今年はどうなエニクな事業が行われるのかOBとして期待に胸を膨らませています。私たち岸和田JCシニアクラブ会員一同も現役JC会員の活動に際して精一杯の協力を添えたいと考えています。最後に本年が皆様方にとって素晴らしい一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶と致します。